



産業廃棄物処理業ヒヤリハット 企業における具体的取組事例

株式会社 リバイブ

安全衛生情報では会員各社へ伺い、社内における安全衛生の具体的な取組事例をご紹介します。

今回ご協力いただきました会員企業は、昭和39年名古屋市中村区にて「平沼建設」として創業され、平成11年に「株式会社リバイブ」に社名を改称、平成25年に代表取締役として平沼伸基氏が就任。54年の歩みの中で、産業廃棄物処理・解体工事の先駆者として『どのように解体し、廃棄すべきか』を課題に日々取り組まれています。長い歴史から培われた卓越した技術により多くの取引先から信頼を得る、安全衛生組織発足から10年を経た（株）リバイブの社内における安全衛生の取組について、安全管理者 餌取英樹氏、管理部長 久田佳典氏にお話しを伺いました。

◆労働衛生安全管理計画

第9期スローガン

「決めたこと 守る勇気と続ける努力

基本を守り安全作業」

【重点施策】

▶安全があたりまえの現場づくり

実施例-新規入場者教育、危険予知活動による水際での安全確保（KY活動）、コンテナ上での高所作業時手順書・安全設備の考案

▶有資格作業の徹底と計画に基づいた資格取得

実施例-資格取得の推進および現場での携帯確認の実施

▶重機・車両の適正管理

実施例-通勤車両・収集運搬車両の安全運行管理、無保険車両の排除

▶法令遵守と産業廃棄物の適正処理

実施例-廃棄物委託契約書、マニフェストの適正な取り扱いの徹底

▶健康診断の完全実施と作業環境に応じた安全対策

実施例-雇入時・年次・特定健康診断実施による健康維持、管理および増強

▶業界の評価向上を目指した創造的活動

実施例-業界の魅力発信と人材募集に相乗効果のある企画・演出の考案

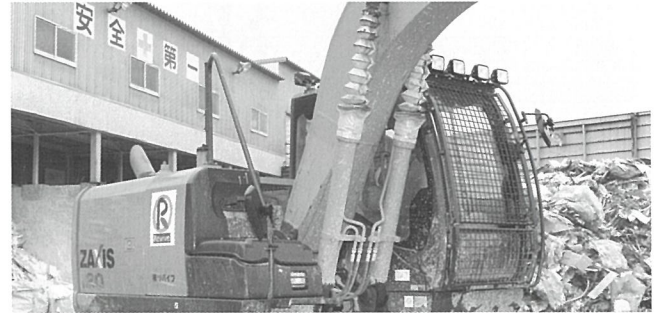


左から餌取氏、久田氏

【社内情報の共有】

事業の柱である「解体工事」と「廃棄物収集運搬・中間処理」の二つの事業を運営するため、社内のSNSを利用して部門の枠を越えた業務状況の共有を図っています。スマートデバイスの特性であるタイムリーな情報発信は、いち早く事故などの情報を共有し、社内において素早い危機管理の対策を講じることができます。また各部署からの「ヒヤリ・ハット」や専門的な考察が意見として上がり、その場での対応や再発防止策がデバイス上で確認することができます。





◆事故事例

①取引先での事案

発生時の状況

ユニック車での作業中、屋根下のトンパックを引っ掛け旋回、ジブを真上に上げた際屋根に接触。
→ドライバーは気づかず帰社し、取引先から連絡が入り判明。

原因

- ・屋根がある位置を作業位置として判断した。
- ・ブーム (上部) より吊っているトンパック (下部) に意識が取られてしまった。
- ・ユニック作業の慢心。

対策

- ・現場にあった回収方法の提案、安全作業のできる環境づくりに努める。
- ・ドライバー、営業の現場情報の共有を強化。

②自社内での事案

発生時状況

18時に帰社、フォークリフトで荷降ろし時、シャッター脇の鉄骨部分を破損。
→シャッターが開閉しなくなった。応急処置としてシャッターを開けた。(閉まらない状態。)

原因

- ・冬の夕刻時で暗がりでの作業であった。
- ・ユニック車の停車位置が狭い場所であった。
- ・早朝勤務で緊張感が薄れていた。

対策

- ・暗い場所では照明を点灯して作業する。
- ・最低作業半径5mを確保する。
- ・上長と相談して仮眠を視野に入れて行動する。

◆安心と安全

弊社場内では人と車両重機が近接作業となる為、朝のKYと夕刻のヒヤリ・ハットは欠かせず、幸いにこれまで大きな事故はありませんでした。しかし搬入物の中に釘やビスが多いため、搬入車がパンクすることがあります。また、重機による分別作業時に廃棄物の飛び跳ねにより前面ガラスの割れ、重機下部への巻き込みがあるため、防護ネットを前面と下部に張り対策を講じました。安全に対して常に現場の状況を把握し、全社で共有を図り素早く対応する、常に考え、学び、成長する人材の育成が、弊社の関わる全ての現場での安全な作業環境づくりの礎ではないかと考えます。

安全管理者 餌取英樹

ご安全に

弊社は、建築物・構造物の解体撤去及び産業廃棄物の収集運搬・中間処理を事業の柱としており、取引上関係する解体業者や収集運搬業者も多く、直営の中間処理施設のみならず、建設廃材発生元である解体現場でも安全対策を講ずることが求められています。

毎年、安全衛生管理計画を作成し、社内安全衛生委員会と共に業者会の役員会・半期総会・定時総会等を開催し、協力業者と共に全社で安全意識を共有し、弊社が関わる全ての現場で安全な作業環境を作りあげることを目指して活動を展開しています。



(一社)愛知県産業廃棄物協会
安全衛生委員会 副委員長
(株)リハイブ 代表取締役会長
平沼 辰雄 氏